

〔Ⅰ〕市民協働推進モデル事業に関する
平成28年度事業報告及び収支決算書
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1 事業実施の成果に関する総括

本市並びに本県教育の現状は全国にみたとき、学力や問題行動について少しずつ改善の方向にあるものの依然として厳しい状況であることは残念と言わざるを得ない。

「自立する子ども」「共に生きる 豊かな人間性 自分を高める子ども」の育成をめざし、かつて「教育県岡山」と讃えられた歴史的経緯を振り返り、先人の様々な努力を顧みながら、学校・家庭・地域において市民が協働して、規範意識、思いやりの心、地域への愛着と誇りをもった心豊かな子どもを育てていく取り組みがますます必要である。

そこで岡山県教育振興会としては「市民協働推進モデル事業」の充実のために「学校支援ボランティア支援」を重点活動として取り組んできた。

6月末に会員（維持会員を除く）約1,100名にボランティアバンク登録依頼状並びに活動状況の調査を実施した。

(1) 平成27年9月～28年8月の登録者数は、県下で活動野の重複を含めると延べ415名、活動回数は延べ2,991回となった。

教員OBを主体とした会員が学校支援ボランティアとして地域住民、大学生などと協働して、学校・地域活動に支援していることに学校・地域から評価を受けている。

資料〔1〕 「学校支援参加ボランティア 活動状況の内訳」

(2) 岡山市の登録者約146名（重複を含める）は岡山市生涯学習課の「学校支援ボランティア」にも登録している。登録者名簿を市教育委員会、学校園に送付し、より多くの会員が参加して学校支援体制が確立されるよう努力した。

(3) 活動内容の内訳は（参考「学校支援ボランティア活動状況の内訳」）

- ① 学校経営、教育相談、子育て支援、家庭教育講話
- ② 授業支援・学習支援（教科）
- ③ 学校支援・（校外学習）、地域交流校
- ④ 土曜・日曜日・放課後のおさらい
- ⑤ 論語、読み聞かせ
- ⑥ 登下校見守り・あいさつ運動
- ⑦ 発明クラブ、シニアスクール
- ⑧ 学校園環境美化支援

- ⑨ スポーツ、茶道、生け花、短歌
- ⑩ 福祉・人権講話・老人ホーム訪問

(4) これらの活動をとおして、学校、地域から感謝のことばが届いており、市民地域協働による岡山市の学校支援ボランティア活動の充実と発展に寄与できていると考えている。

一方では会員の高齢化、体力の低下などで意欲はあるものの十分な活動ができない会員も多い。若い世代を会員として勧誘することが課題だと考えている。

2 実施事業

(1) 市民協働推進モデル事業に係わる報告

事業名 「学校支援ボランティアバンク支援事業」

① 事業目的・方針

本会では、会の中心活動として青少年の健全育成において、支部ごと、地域ごとに保護者、地域住民との協働による支援活動を中心として、講演会、研修会を開催して、学校・家庭・地域の教育支援によって、地域、家庭の教育力が高まるよう応援をしている。

中教審の答申では、「人間力」豊かな子どもの育成が中心的課題としてとりあげられている。この背景としては

- ・ 知育偏重の社会的な風潮の中で、子どもたちには生活のゆとりがなく、生活体験、自然体験が不足している。
- ・ 少子化傾向や人間関係づくりの機会の減少などから、忍耐力、社会性、倫理観の欠如した子どもが増えている。
- ・ 過保護、放任といった家庭の教育力の低下により、自立できていない子どもが多い。
- ・ TVゲームやゆとりのない生活、運動遊びの減少により、健康や体力に問題をもつ子どもが増えている。

「人間力」豊かな子どもの育成を図るためには、学校、地域、家庭が連携し協働して、「地域の子どもは地域で育てていく」という基本認識をもつことが基盤となる。家庭や地域でのふれあい、友達との遊び、地域の住民との交流などさまざまな地域協働による支援活動をとおして、「人間力」を培っている。

完全学校週5日制の今日、さらに学校、家庭、地域が一体となり地域協働の活動をとおして、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら「人間力」豊かな子どもの育成を図らなければならない。

そのために各学校は、真に「地域に根ざす教育」を進めることが課題となっている。学校・地域・家庭が協働して基本的な生活習慣、規範意識、地域への愛着をもった豊かな心などを育てるために役割を担い、地域は子どもたちが学校や家庭で学んだことを実践・体験する場としての受け皿とならなければならない。土曜休業日や日曜日、さらには放課後の活動を含めて地域活動の活発化を図ることが「人間力」育成のキーポイントと考えられる。

本会は40年近く教員として、勤務した校長経験者を中心として、会員約1,100人を擁している。会員はそれぞれ、高い識見と豊かな経験のある者である。これらの人材を地域の教育に役立てたいと「学校支援参加ボランティアバンク」を設立し活動しているところである。

今後とも、「学校支援参加ボランティアバンク」の活動をとおして、会員ひとりひとりが、自分の居住地を中心にして子どもたちの学校教育活動、地域活動を積極的に支援していきたいと考えている。

人材登録名簿は、県下幼、小、中学校及び市町村教育委員会に配布し活用されている。また、各市町村の生涯学習課、県生涯学習センター、各種ボランティア団体等とも連携を図り、自分の居住地を越えても支援に応えられるように願っている。

ボランティア活動の実態把握はなかなかできにくい現状がある。ボランティア活動に参加していても本会に報告があがらいことが多いようである。参加したことの記録もれ、本会の報告もれも相当あると考えている。

より正確な実態の把握がなかなか困難な状況である。

② 事業内容

◇平成28年

4月 23日	役員・運営委員会 27年度「学校支援ボランティア活動」の反省と28度の方針について協議
6月 20日	総会において「学校支援ボランティアバンク」の登録の依頼・要請をする。
9月 1日	「学校支援ボランティアバンク」趣意書,登録依頼活動調査状の報告依頼 (1100通)

11月 19日	県学校園長会代表者との懇談会 「学校支援ボランティアバンク」活動の趣旨説明と人材活用の依頼
11月 22日	支部事務長会(事務局) 「学校支援ボランティアバンク」活動状況について協議 名簿の見直し
25日	「学校支援ボランティアバンク」人材名簿作成と印刷
12月 中旬	県下市町村教育委員会、教育関係機関に人材登録名簿を送付

◇平成 29 年

～1月中旬	県下市町村教育委員会、教育関係機関に人材登録名簿を発送
2月 1日	県教育振興会だより 76号にボランティア活動状況を掲載
3月 11日	役員会、運営委員会合同委員会にボランティア活動事業の反省と今後の方針を確認

③ 事業の実施場所

県下学校園の学区全域において地域の学校園、空き教室、公民館等で年間を通じて常時活動を実施している。

④ 事業効果

本県の学力低下や暴力行為、不登校などの課題に対応するためには、これまで以上に学校、家庭、地域が一体となって地域協働による「教育県岡山の復活」に向けて取り組んでいく必要がある。学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしていかなければならない。教員 OB が中心となつての学校支援ボランティア事業は現在まで成果を上げてきていると考えている。

この活動は子どもたちへの支援だけでなく、学校教員の資質向上や親の子育てのための研修会、講演会も開催できたことは学校教育を側面から支援していくことになっているとその効果を評価している。

平成 28 年度の場合、延べ 400 人を超える会員が延べ 2, 900 回以上、多様な形で地域活動に関わっているが、まだまだ十分とは言えず、地域や学校からの期待は大きい。会員の確保と地域住民のボランティアとしての意識変革をさらに図る必要がある。

その成果が学力や暴力行為や不登校などに目に見えてその成果があらわれるには更なる継続と努力がいる。

また、教員・地域でボランティア活動に関わっている方を対象にした修会については、28年度は「生きる力を育てる読書支援―最新の実践事例から―」をテーマに、ノートルダム清心女子大学名誉教授 協明子氏による講演会を開催した。

子どもが生きる力を身につけるためには、会話が飛び交うような環境の中での豊かな生活体験が不可欠であり、メディアの急速な発展は子どもたちからそんな体験の機会を奪い、それが生きる力の深刻な弱体化や学力の低下につながっているとの観点からの生きる力の育ちを促すような読書の大切さを研修した。

参加者は会員・OB 教員 57 名、現職教員 3 名、一般 21 名、行政 2 名、計 83 名であった。

講演内容から参加に期待している現職の教員にもっと、参加してほしい。PR の方法、時期等について検討・見直しが必要である。

[その他の事業効果]

- ・土曜休業日や平日放課後、長期休業日における地域の子どもたちの文化活動、創作活動、スポーツ活動へのボランティアによる支援をにより、子どもたちの「人間力」の育成に寄与できていると考えている。
- ・学校の校外活動、学校行事、登下校時に子どもたちが安心して活動できるように登下校時の見守り、あいさつ運動に参加している会員が増えてきている。

以上のような事業効果を生んでいると考えている。

資料 [1] 「学校支援参加ボランティア活動状況の内訳」

⑤ 事業費

事業にかかわる経費は主として会議費、印刷費、通信費であるが、振興会全体の予算の中で執行している。

資料 [2] 「平成 28 年度 決算書」

(2) 団体の全般的な活動に関わる事業報告

(特定非営利公益事業を除く)

事業名 「岡山県教育振興会事業」

① 事業目的・方針

日本の正しい教育のあり方を研究並びに研修し、本県にふさわしい教育の振興に寄与することを目的としている。

[このために次のような事業を実施する]

- ・教育行政に対する意見の具申
- ・青少年の健全育成
- ・使命感と教育愛をもつ教員養成とその資質向上
- ・生涯学習社会における自立的な人間形成
- ・国際理解、交流推進の支援

[重点実施事項]

1 「人間力」豊かな子どもの育成

—岡山県の教育復活に向けて—

本県において、ここ数年の調査結果等から学力や暴力行為、不登校などについて依然として厳しい状況にあると捉えている。

そこで、前年度（27年）は子どもの学力を底から支えるものとしての読書の重要性に鑑み思考力、想像力、書き言葉の力が育つ読書へと子どもたちを導くにはどのような支援が必要かについて研修した。

本年度は生きる力の育ちや学力に結びつくのはどんな読書かを再認識し、子どもたちをそんな読書へと導くには、学校・家庭・地域でどのような支援をすればいいかを実践事例を通して具体的に学ぶ。

- 2 会員による「学校支援参加ボランティア」の活動を充実し、学校教育や子どもたちの地域活動を学校・家庭・地域の協働で支援を行う。
- 3 本会の主旨について、広報活動を積極的に進めるとともに、各支部等と連携して会員の増強に努める。

① 事業内容・活動状況、実施時期・場所

資料 [3] 「平成 28 年度主な事業」

② 事業効果

- ・ 岡山市はもとより、岡山県下各地で学校・地域・家庭が協働で取り組むための提言や活動を県下支部と連携して進めることによって、学力や問題行動等について少しずつではあるが改善の方向にあるものの、「教育岡山の復活」に向けて全力で諸事業を引き続いて頑張ってきたが、まだまだ道半ばと言わざるをえない。
- ・ 教育講演会（支部を含めて）7回の開催、並びに総会での「人間力」豊かな子どもの育成―岡山県の教育復活に向けて―についての講演等を通じて、現職教員、OB教員、会員、一般の方々の研修の機会を設けることができた。
- ・ 県教育委員会幹部、県校園長会代表者、各種団体との懇談会を通じて、「地域協働」の推進について共通認識ができた。
「学校支援ボランティア」についても各地で活動が行われ、学校支援、地域支援をすることができている。
- ・ 「県教振だより」（年2回発行）約2,7千部発行し、県下全ての学校園、教育行政機関に送付し「豊かな人間力」の育成や「教育岡山の復活」に向けての具体的なあり方について啓発してきた。

③ 事業費

「学校支援ボランティアバンク支援事業」と「岡山県教育振興会事業」の二つの事業にかかわる収支決算書

二つの事業の活動の内容、実態から個別に会計報告することは事務上困難であるので、一つにまとめた決算報告になっている。ご了承ください。

資料 [2] 「平成 28 年度 決算書」

〔Ⅱ〕平成29年度 市民協働推進モデル事業 年間計画

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

1 事業実施に関する全体的方針

平成14年度に学校週5日制の完全実施が行われることになって、本会は土曜休業日等の子どもたちの地域活動を援助する目的で「学校支援ボランティアバンク事業」を立ち上げた。

ボランティアバンク設立当初は、関係諸団体、学校園への趣旨の徹底も十分できていなかったために、期待した会員の確保が得られなかったが努力した結果、本年度では県下で約420人が、約2,900回(活動分野の重複を含めて)にわたって参加している。

また、本県においてはここ数年の調査結果などから学力や暴力行為、不登校などについて厳しい状況にある。そのためには、学校・家庭・地域が一体となって地域協働で地域の教育力を生かし、地域に根ざした教育を行うことが「教育県岡山の復活」を支援することになると認識している。

そこで、本年度も引き続いて未登録会員にボランティアバンクへの人材登録を強く呼びかけ体制を強化していくために、支部ごとの勧誘活動の取り組みが欠かせないと考えている。

また、ボランティアの活用については幼稚園、小、中学校への趣旨の徹底とともにPTA、地域の諸団体にも人材登録者名簿を配布し、十分な活用が図られるように努力したい。

なお、ボランティア自身も、居住地の学校、各種関係団体に出向き、積極的に参加していくとともに、地区のコーディネーターとして活動するよう啓蒙していきたい。

本年度はテーマ「人間力」豊かな子どもの育成—教育県岡山の復活に向けて—を掲げる。

読書を取り上げて一昨年、昨年に続いて、本年度は「通常学級で特別な支援が必要な子どもたちへの教育」を取り上げて、今日の大きな教育課題への対応のあり方について提言していく。

2 実施予定事業

(1) 市民協働推進モデル事業に係わる事業計画書

事業名 「学校支援ボランティアバンク支援事業」

① 事業目的・方針

本会では、会の中心的な活動を青少年の健全育成におき、地域ごとに保護者、地域の方々との協働によって、講演会、研修会を開催したりして、学校教育の支援とともに地域や家庭の教育力の回復のために尽力していく。

本県では、学力、暴力行為、不登校などについて、少しずつ改善の方向に向かっているといいながら、残念ながら依然として厳しい状況にある。

かつての「教育県岡山」を復活するためには、今後一層「人間力」豊かな子どもの育成を図ることが基盤となると考えている。

学校・家庭・地域が協働して親子のふれあい、友達との遊び、地域の人々との共同作業などのさまざまな体験活動を通して、「人間力」を育てていくための支援をしていかなければならない。

そのためには、学校週5日制の完全実施を受けて学校・家庭・地域が一体となり、互いに連携し、それぞれが役割をはたしながら、協働して子どもたちを育てていくこと、つまり「地域に根ざした教育」を推進していくことが求められている。

家庭は基本的な生活習慣、豊かな情操、他人に対する思いやり、善悪の判断など「人間力」の基本的な資質の育成を分担することとなるであろう。

地域社会は「人間力」を育むために、学校や家庭で学んだことを実践、体験する場としての受け皿にならなければならない。

学校は社会に対して「開かれた学校」となるように学校運営を進め「地域の子どもは地域で育てる」という基本理念をもち続けなければならない。

まさに、土曜休業日や日曜日に、子どもたちの地域活動を活発化することが「人間力」育成のキーポイントと考えている。

本会は、かつて40年近く教職にあって校長の経験のある者を中心とし県下会員、約1,100を擁して活動している。各分野に精通したこれらの人材をこれからの地域の教育力の向上、充実のために役立ちたいと「学校支援ボランティア」を設立したものである。しかし、近年会員の高齢化もあり人材の確保が難しいところがあるが、本会は一層「学校支援ボランティア」の活動をとおして、会員一人一人が県下各地で子どもたちの学校教育活動、地域活動を支援していかなければならないと考えている。

② 事業内容

[平成28年]

4月22日	運営委員・会運営委員合同委員会 ボランティア支援事業の推進について 登録者の増強 支援活動の強化について
6月24日	総会、研修会でボランティア支援事業の現状と新会員加入について依頼、意見交換 教育講演会
7月 中旬	27年度末退職校園長に加入の文書とボランティア登録の依頼状発送
8月 中旬	未登録者に趣意書、登録依頼状の発送、現登録者に活動状況を報告
8月 中日	支部長会 活動状況について意見交換
10月 中旬 (未定)	新規ボランティア登録者名簿作成 印刷
10月 中旬 (未定)	県下幼、小、中、高、特学校、市町村教委、教育行政機関に登録者名簿を配布
11月18日	県幼小中高特支学校長会長との教育懇談会、
11月 中旬 (未定)	岡山市PTA連合会との懇談会(岡山支部)
12月 9日	教育研修会「教員をめざす学生と先輩教員とのトーク」
30年2月中旬	県教育委員会幹部との教育懇談会 学校支援について
3月10日	運営委員会・役員会 ボランティア活動についての反省総括、平成30年度の取り組みについて

③ 実施予定時期・場所

- ・ ボランティア活動は、年間常時依頼を受け会員が活動を行う。
- ・ 活動場所は県下各地の学校園、空き教室、公民館、体育館が中心。
- ・ 現状では支部をおいている岡山市、倉敷市、玉野市、高梁市、が登録会員が多く活動の中心となっている。

④ 予想される事業効果

ボランティア活動に支援者として会員がかかわることによって、幼稚園、小、中学校の幼児、児童、生徒の休業日における活動が活発に、しかも安全、安心が確保されて実施されることは、子どもたちの「人間力」豊かな育成に寄与することが大きい。さらに土曜日、放課後などを活用して勉強の補習に関わっていくことが「岡山の教育復活」につながることを確信している。

また、本事業を実施することにより、学校教育の中での体験活動が活発になったり、教員の資質向上も図られることを想定している。

⑤ 事業費

会議費、印刷費、通信費などを本会計から支出する

(2) 全般的な活動に関わる事業計画

(学校支援参加ボランティア事業を除く)

事業名 「岡山県教育振興会事業」

① 事業目的・方針

日本の正しい教育のあり方を研究並びに研修し、本県にふさわしい教育の振興に寄与することを目的とする。

この目的にを達成するために次のような事業を実施する。

- ・ 教育行政に対する意見具申
- ・ 青少年の健全育成
- ・ 使命感と教育愛を持つ教員養成と資質向上
- ・ 生涯学習社会における自立的な人間関係
- ・ 国際理解、交流にたいする教育の推進 等

〈重点目標〉

- (1) 本県にふさわしい教育のあり方を研究並びに研修し会員相互の教育的識見を磨くとともに教育の振興に寄与する。
- (2) 岡山県の教育再生に向けて教育関係団体との懇談会を開催し、学校園並びに家庭・地域の教育力の向上と、子どもに健やかな成長を図るための提言や支援を行う。
- (3) 一般会員、維持会員の維持、増強を図り、各支部との連携を深め、組織の充実と実践活動を進める。

② 事業内容

〈重点実施事項〉

(1) 「人間力」豊かな子どもの育成

—岡山県の教育復活に向けて—

学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちに規範意識、思いやりの心や地域への愛着心が育つような提言や活動を各支部と連携して進める。

(2) 会員の知恵と体験を生かして、「学校支援ボランティアティア」に積極的に参画し、学校教育や子どもたちの地域活動の支援を行う。

(3) 本会の主旨について、広報活動を積極的に進めるとともに、各支部等と連携して会員の増強に努める。

③ 事業計画

資料 [4] 「平成 29 年度 主要事業計画案」

3 その他

・ 岡山県青少年育成県民会議事業に協賛

(作文審査員を本会から派遣)

④ 実施予定時期・場所

青少年健全育成のための地域活動（ボランティア）は、県下全域で、年間を通じて活動を行う。

⑤ 予想される事業効果

当事業の推進によって、「人間力」豊かな子どもの育成、—教育県岡山の復活に向けて— 学校と家庭・地域が協働して「地域の子どもは地域で育てる」の共通理念のもとに、一体となって取り組みがなされることの効果は大きいものと期待されることである。

今後ともそのためのプロデューサー役、司令塔の役を当教育振興会・会員が担い、岡山の教育の充実と発展のために支援していきたい。

また、教育講演会の開催や各種教育関係団体との懇談会等を通じて連携を図ることによって、「人間力」の育成のために ―「教育県岡山」の復活に向けて― 各界の叡智を結集しそのて方策をさぐり、実践に結びつけていくことが本会の使命と考えている。

さらに「県教振だより」の発行、ボランティア人材登録名簿の関係機関への配布により、活用され地域における子どもの体験活動等の活発化が図られよう努力したい。

⑥ 事業費

「学校支援ボランティアバンク支援事業」と「岡山県教育振興会事業」の二つの事業に係わる収支予算書

資料 [5] 「平成29年度 収支予算」

学校支援参加ボランティア活動状況の内訳
(平成 27 年 9 月～平成 28 年 8 月)

活 動 の 内 容	人 数	延 回 数
学 校 経 営・教 育 相 談 子、孫育て・家庭教育講話	3 1	5 8
授業支援・学習支援(教科)	2 8	1 4 9
学 校 支 援 (校外学習)・ 地 域 交 流	8 5	3 6 9
土曜休業・休業日・放課後 おさらい	9 2	6 7 8
論 語、読 み 聞 かせ	1 1	4 1
登下校見守り、あいさつ運動	9 6	1, 1 1 7
発明クラブ、シニアスクール	1 5	1 8 6
学校・園 環 境 美 化 支 援	3 4	1 0 7
スポーツ、茶道、生け花、短歌	1 1	2 1 0
福祉・人権講話・老人ホーム訪問	1 2	7 6
合 計	延 (人) 4 1 5	延 (回) 2, 9 9 1

平成28年度 収支決算書

収入の部

(単位：円)

△ 収入減

項目	28年度予算	28年度決算	差引額
I 前年度繰越金	981,480	981,480	0
II 会費	2,040,000	1,989,000	△ 51,000
III 助成金	450,000	600,000	150,000
IV 預金利息	100	41	△ 59
V 雑収入	0	1,000	1,000
合計	3,471,580	3,571,521	99,941

支出の部

△ 支出増

項目	28年度予算	28年度決算	差引額	
事業費	1 総会費	250,000	224,784	25,216
	2 会議費	130,000	121,909	8,091
	3 役員出張費	5,000	0	5,000
	4 印刷費	250,000	256,782	△ 6,782
	5 通信費	210,000	220,024	△ 10,024
	6 研修費	5,000	0	5,000
	7 普及活動費	60,000	60,000	0
	8 支部配賦金	750,000	692,500	57,500
管理運営費	1 備品購入費	40,000	53,073	△ 13,073
	2 人件費	660,000	660,000	0
	3 消耗品費	70,000	98,700	△ 28,700
	4 輸送費	3,000	0	3,000
	5 慶弔費	10,000	0	10,000
	6 交通費	84,000	84,000	0
	7 会費集金費	40,000	29,870	10,130
	8 雑費	30,000	29,335	665
	9 光熱費	24,000	18,000	6,000
予備費	850,580	0	850,580	
合計	3,471,580	2,548,977	922,603	

平成28年度決算	収入総額	支出総額	次年度へ繰越
	3,571,521	2,548,977	1,022,544

平成29年4月19日

上記監査の結果適正に処理されていることを認めます

監事 藤原克己 印

監事 犬飼舜也 印

平成 28 年度 事 業 報 告

年 月 日	こ と が ら ・ 内 容
28	
4 . 2 1	・ 27 年度 会計監査
4 . 2 3	・ 役員・運営委員合同委員会開催 まきび
5 . 3 0	・ 福武教育文化振興財団に「教育助成金申請書」「活動報告書」提出
4 . 1 2	・ 岡山県、岡山市教育委員会に「研修大会」後援申請書提出
4 . 2 7	・ 岡山県青少年財団に「補助金申請書」提出
5 . 2 6	・ 玉野支部 総会、研修会 演題「整 活」 ―あなたは、捨てると収納で 失敗している― 講師 佐藤亮介 整理収納評論家
5 . 2 8	・ 高梁支部 総会、研修会 演題「保育の現状」 講師 金丸弘枝 高梁市立高梁保育園長
5 . 3 0	・ 岡山県教育会に「教育文化助成金」申請
6 . 1 8	・ 岡山支部 総会、研修会 講演「私の歩んだ道」 講師 辻吉之祐 市教振会長、県モロゾク研究会顧問
6 . 2 0	・ 岡山市に特定非営利事業報告書と計画書を提出
6 . 2 5	・ 総会、研修大会 講演「生きる力を育てる読書支援」 講師 脇 明子 清心女子大名誉教授 参加者 83 名
7 . 2 3	・ 福武教育文化振興財団 助成金贈呈式
7 . 2 9	・ 岡山県教育会 教育文化助成金贈呈式
8 . 1	・ 倉敷支部 教育講演会（後援） 講演 「一瞬の無限 そこから生まれる共震の世界」 ―ヒマラヤ、日本の山々での体験から― 講師 戸高雅史 登山家、屋外教育指導者

年月日	こ と が ら ・ 内 容
8. 4	・瀬戸内支部 教育講演会 講演 「子どもの自尊感情をどう育てるか」 講師 近藤 卓 山陽学園大学教授
9. 1	・「教振だより」75号 発行、配布
10. 3	・「教振だより」76号 執筆依頼状発送
11. 19	・県幼・小・中・高・特支 校園長との教育懇談会 出席者 校園長代表7人 県教振8名
11. 21	・県幼・小・中・高・特支校園長会からの要望書を県教育長に提出
11.18	・おかやま教育の日協賛「教育研修会」後援申請を県、市教育委員会に提出
12. 3	・おかやま教育の日協賛「教育研修会」 「教員をめざす学生と教員OBとのトーク」 －教師への夢を語る－ 参加者 72名
2. 1	・「教振だより」76号発行、配布
29 2. 8	・県教育委員会との教育懇談会 参加者 県教委 10名 県教振 10名
2. 23	・岡山市に「教育財産目的外使用許可申請書」提出
3. 11	・運営合同委員会開催 28年度反省と次年度に向けて
3. 20	・ボランティア名簿作成、
3. 29	・岡山県教育会に「教育文化助成金報告書」提出

平成29年度 主要事業計画 (案)

1 研修大会・総会

平成29年6月24日(土) 13:30 ~ 15:40
ピュアリティーまきび (2F 孔雀)

(教育講演会)

演 題

通常学級で特別な配慮が必要な子どもたちへの支援や教育

講 師

岡山大学教授
東 條 光 彦 先生

対 象 会員、現職教員(幼小中特別支援学校)・教育行政関係者、
一般

後 援 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会

助 成 福武教育文化振興財団・岡山県教育会・岡山県青少年財団

2 おかやま教育の日協賛 「教育研修会」

第7回 教員をめざす学生と教員OBとのトーク
—教師への夢を語る—

平成29年12月9日(土) 13:30~15:30
ピュアリティーまきび

〈検討課題〉

・助言者(2名) 現役校長 岡山市と他市から

3 教育懇談会

① 岡山県幼、小、中、高、特支学校園長代表者との懇談会

・平成29年11月18日(土) 予定

14:00~16:00 まきび

・教育の現状について意見交換をし、県教育長に要望書を提出

② 岡山県教育委員会幹部との懇談会 (本年は県教振が担当)

・平成30年2月中旬 (予定)

・教育行政についての意見交換、提言をする

4 学校支援参加ボランティア活動

- ・学校支援活動の充実推進 地域活動に積極的参加
- ・「人材登録名簿」手直し (平成28年度版の見直し)
- ・登録者名簿作成、教育関係機関に配布

5 支部活動の支援

- ・支部活動情報交換
- ・「県教振だより」によるPR

6 「県教振だより」の発行、配布

- ・年2回 発行 (各2,9千部) 9月、2月

7 運営委員会 の開催 3月10月 (予定)

平成29年度 収支予算書

収入の部		(単位：円) △ 収入減			
項 目	前年度予算	本年度予算	差 引 額		
I 前年度繰越金	981,480	1,022,544		41,064	
II 会 費	2,040,000	1,800,000	△	240,000	
III 助 成 金	450,000	600,000		150,000	
IV 預 金 利 息	100	50	△	50	
V 雑 収 入	0	0		0	
合 計	3,471,580	3,422,594	△	48,986	
支出の部		△ 支出減			
項 目	前年度予算	本年度予算	差 引 額		
事業費	1 総 会 費	250,000	250,000	0	
	2 会 議 費	130,000	140,000	10,000	
	3 役員出張費	5,000	5,000	0	
	4 印 刷 費	250,000	300,000	50,000	
	5 通 信 費	210,000	220,000	10,000	
	6 研 修 費	5,000	5,000	0	
	7 普及活動費	60,000	60,000	0	
	8 支部配賦金	750,000	660,000	△	90,000
管理運営費	1 備品購入費	40,000	55,000	15,000	
	2 人 件 費	660,000	660,000	0	
	3 消 耗 品 費	70,000	90,000	20,000	
	4 輸 送 費	3,000	3,000	0	
	5 慶 弔 費	10,000	10,000	0	
	6 交 通 費	84,000	84,000	0	
	7 会費集金費	40,000	35,000	△	5,000
	8 雑 費	30,000	40,000		10,000
	9 光 熱 費	24,000	24,000		0
予 備 費	850,580	781,594	△	68,986	
合 計	3,471,580	3,422,594	△	48,986	

平成29年度 予 算	収入予算	支出予算	差 引
	3,422,594	3,422,594	0